

## 令和2年度第1回湖南省男女共同参画懇話会(会議録要約)

- 日時 令和2年(2020年)9月14日(月) 午後2時～3時40分
- 場所 共同福祉施設(サンライフ甲西)
- 出席 委員 10名  
市長、事務局 5名

### 1. 開会

(進行説明)

### 2. あいさつ

(市長あいさつ)

### 3. 自己紹介

(名簿順に自己紹介)

### 4. 役員選出

会長 今村傳男さん

副会長 京樂真帆子さん

### 5. 報告事項

#### (1)これまでの施策について

会長:

これまでの施策について事務局から説明を。

事務局:

《資料1～資料3に基づき説明》

会長:

市の男女共同参画計画については、男女共同参画社会基本法、DV法、女性活躍推進法の3つの法令に基づく計画である。また、施策の推進については、成果指標を定めて管理しているという説明だった。質問、意見があれば。

副会長:

2点質問。

1 点目は、男女共同参画副読本の活用率について。活用率が徐々に下がってきてることについて、どのように分析しているのか。

2点目、男性市職員の育児休業の取得率がゼロである点について。市内の事業所における男性の育児休業の取得割合のほうがかなり高い。これについて、どのように分析しているのか。

**会長：**

今の質問について事務局から説明を。

**事務局：**

副読本については、人権主任会議等で啓発しているが、なぜ使われてないかというところまでの分析はできていない。またヒアリング等で確認していく。

市役所の男性職員の育児休業の取得率については、庁内で啓発ができていないんだと思うが、人事担当にも確認していく。

企業の育児休業取得率は、毎年アンケートで確認している。もっと増えていくように啓発ができればと考えている。

**委員：**

副読本の方は、(委員に)学校現場の校長先生がおられるので現状を聞きたい。(男性の育児休業取得率について)市役所がゼロということについては、部長に回答いただきたい。

**委員：**

授業数が増えている。そのしわ寄せがってしまったのかなというところを感じる。

質問になるが、超過勤務の360時間以上の職員について、女性限定なのかについて聞きたい。

**総務部長：**

市職員の育児休業の取得率について、時間休を取ってる職員は何名かいる。育児休業としての取得がずっとゼロということで、誰も取得してないので、ちょっと取りにくい状況にあるかもしれない。

**事務局：**

先ほどお尋ねいただいた超過勤務360時間以上の対象職員は男女を含んでいる。

## **(2)事業計画について**

**会長：**

次の事業計画についての事務局から説明を。

**事務局：**《資料4～資料9に基づき説明》

**会長：**

今年度は調査を行い、改訂作業は来年度に行うという説明だった。

質問、意見があれば。

私のほうから1点質問。市民調査では大体何%ぐらいの回収率を見込んでいるのか。

**事務局：**

前回調査で 35～6%程度。昨年実施した人権に関する調査では 30%を少し下回った。市の規模と回収率を予測したうえで、ある程度、信頼できる数値を取るため、2000 人を調査対象と定めている。予測している回収率は約 30%である。

**副会長：**

調査をする時は数値データと質のデータが必要だと思う。数値データは 30%前後ぐらいで、どうしようもないが、ヒアリング調査のところを十分にやっていただきたい。

調査に協力してくださる団体に、実際に対面で調査をお願いすることも必要だと思うので、検討を。もう一点、市民調査については、性の多様性に配慮した、答えやすい質問項目について工夫いただきたい。

**事務局：**

指摘いただいた点について配慮しながら進めたい。

**会長：**

それでは今年度の調査について、今回の意見や関係機関の意見を踏まえながら、事務局が項目設計し、12 月頃する予定ということで、事務局は準備を進めていただきたい。

## **6. 協議事項**

**会長：**

本日のテーマは、「性別による生きづらさ」。ご自身の経験から、またこんなことを聞いたことがある、ニュースを見てこう思ったということなど、思いつくままに話していただきたいと思います。

**副会長：**

コロナの影響で、家庭生活の中でいろいろ問題が出てきているのではないかな。

**委員：**

企業ではハラスメントについて、防止規定の設置、全従業員への説明・閲覧などの対策をしているが、訴えにくい状況があり、実態を把握するのが非常に難しいと感じる。

時間外労働については、一般の製造業については、360 時間に収まらない状態でもある。政府が小中学校の生徒にタブレットを持たせると言えば、それを製造する企業はその増産で、非常に時間を費やすことになる。

家庭学習では親が通信環境整備をすることになるが、ひとり親世帯やWi-Fiがなくて学習できないという子どもなどへの補助的なものなど、人権の方に関わってくる部分もある気がする。

**総務部長：**

いわゆるギガ構想のお話になるが、通信環境のない家庭にはモバイルルーターのようなものを貸し出すなどして、環境を確保するというような思いで動いてる。

**委員：**

コロナのために、家庭学習が2月から5月まで続いた。国ではギガスクールということで、2～3年構想で考えていたが、湖南省市として、これを早めていただけるというふうに聞いている。

湖南省市はiPadで進めていくと聞いているが、そのiPad自体が数がそろわないということで、中3、小6とかそういったところから、早めて進めていただけると聞いている。

家庭での Wi-Fi 環境についてのアンケートも行った。環境がない家庭への対応方法もいくつか考えられている。

**会長：**

また市の方で皆さんに行き渡るようにということをお願いをしたい。

**委員：**

学校の方での子どもたちの生きづらさについて。

昔であれば、男らしく女らしくということで、子どもたちに指導してそれでOKという形だったが、最近はそういうふうにもいかない。肉体的な男性・女性というものとジェンダーがあり、ジェンダーとして男女平等であると学校でも教えている。

男も女も関係ないという部分もあれば、着替えであるとか、男女を分けなければならないところもある。

先生たちが言っていることを子どもは理解しようとするんですけども、それができないこともある。

家庭で言うことと、学校で言うことがちがう。

しっかりした意識を持った中学以上とか、ある程度の年代になってきたらいいが、小学校では難しく、どうやってあげたらいいんだろうなというところを感じたりする。

**委員：**

離婚の相談を受けることがある。男女共同参画は働くだけではない。二人で家庭は作ってるっていう、そういう意識を常に持って、幸せな家庭の中で、社会に出ていく力を子ども達につけるためにも、家庭が健全に、言いたいことが言えて、人間としてしなければならぬということを親として実践して教えていけないといけない。家で言うことと学校で言うことが違うというふうでは、なかなか浸透していかない。

家族が別れてしまっただけで子どもが寂しい思いをしているのではないかな。一人の母親が子どもを育てていくっていうのは、経済的にも、精神的にも十分なものを与えられない、そこを決意して、自分の思いだけではなく、子どもがどういうふうで育っていくかということ、しっかり考えて、生きていかないと本当の男女共同参画社会になっていかないというふうなことを考えている。

**委員：**

日々相談を受けている感覚からすると、実際ひきこもっておられる方は、2 対 8 ぐらいの割合で男性の方が多。

逆にご相談いただく方は、お母さんからの相談が圧倒的。

女性の方の場合はひきこもっていても、いわゆる家事労働をして、おうちの中での役割というのが、結構されてる方が多。そうすると、親御さんとしては、家のことしてくれていたらいいとしようかみたいな形で、ずるずると年数が来てみたいところがあるのかなと思う。

男性は働いてないということがとてもやはりプレッシャーになる。親御さんも危機感を持って、比較的相談が上がりやすい。女性の場合は、ここが低い。

ただ、女性も男性も、働きたいけど働けないっていうことは言われる。

女性の活躍、仕事も生き活き、それも大変いいことではあるけれども、やっぱり仕事ができなんぼのものっていうのは、それだけではやっぱり厳しいし、男性も仕事に就けない自分というのはとてもだめだというふうに思っておられる。やっぱり仕事ができ一人前って思っておられるっていうところが、先ほどの話、男女共同参画が仕事も大事だけれども、それだけじゃないよねっておっしゃった、まさにその通りかなというふうに思う。

ひきこもりに至る要因が複雑ではあるが、不登校の経験であったりとか、いじめの経験があったりとか、人とのコミュニケーションがとても苦手とかいう方が多い。女性でいえば、やはり女の人と出会うほうが、やりやすい、話しやすいという声もある。

女の人が集まりのようなものがあると、少しきっかけにはなるのかなと思う。

ヒアリングの実施、団体の聞き取り調査を行うにあたっては、福祉の団体や、NPOだけではなく、庁舎内での聞き取りもいただきたい。

#### 委員:

普段、仕事をしていて、あまり地域の活動に参加したりとかができなかった。

今もいろんなひきこもりに対してもこういう相談の窓口があるとか、そういうこととかも全くわからない状態なので、皆さんへのアナウンスということが全然、地域には根づいてないというか、伝わっていない。

知っている人はそういう相談とかいろいろなことを活用されるが、知らない人はもう全く知らない状態で、どんどん外に出ていけないような状況とか、そういうこともあると強く感じる。

私も子育てとかしてきて、やはりいろんなこと学校に対しての思いとか、地域に対しての課題のようなものを持っていたが、それを実際にどこに持っていったらいいかわからなかった。特に学校の方に関しては、大体出て行くのが私なので、やはり、女だからという印象を受けたことが多々あった。

最終的には自分が我慢して、そこを何とか乗り越えるっていうことは多々あった。そういうふうなことがあったとき、皆さんに知らせる方法、そういう場が数多く出てきたらいいなということは強く感じた。

#### 委員:

女性が、日々考えてることとか、思ってることとかっていうのはすごくいっぱいあると思う。

でも、それを、どういうふうに行政に伝えたらいいか、思ってることをどういうふうに、発信したらいいかっていうのは、なかなか手段がない。例えば自治会とか、こういう会議みたいなのところに来ても、8割、9割が男性の中に1人女性がまじってて、そこで発言できるかっていうと、ほとんどの人が発言せずに帰ってきて、地域に帰ってきて、自分の友達同士では、「あの時こういうふうに思ってたん」というのがよく出てくる。

私たち湖南省女性会っていうのは、そもそもが地婦連。合併時に旧甲西町の地婦連が軒並み抜けてしまって、旧石部町の残ったメンバーで湖南省婦人会として活動している。行政にちゃんと意見が伝わる機関。ちゃんと意見を聞いてきてもらえるし、充て職ではあってもいろんな湖南省の行政にも関わられているので、ぜひとも旧甲西町の方にも女性の会に入っていたきたい。(女性の会の)例会の時などに雑談でしゃべっていた内容も、代表がまとめて、意見として行政に届けることができるというのを皆

さんに知っていただきたい。

女性の会でなくてもいいが、発信できる場を湖南省市として設けていただければ、一番ありがたいかなと思う。そういうのがなければ、女性ばかりのおばさん同士の集まりがなければ、女性はなかなか発信ができない。

**会長：**

事務局は本日の意見を十分に参考し、今後の取組に、生かしていただきたい。

## **7. その他**

**事務局：**

次回の会議は、調査結果がまとまった来年3月を予定。